

古河電工

古河電気工業株式会社

2025 年 3 月期第 2 四半期決算説明会

2024 年 11 月 7 日

[登壇者]

2 名

代表取締役社長

森平 英也（以下、森平）

取締役兼執行役員 財務本部長

青島 弘治（以下、青島）

古河電工グループ° 2024年度第2四半期決算

2024年11月7日

古河電気工業株式会社

代表取締役社長 森平 英也

取締役 兼 執行役員 財務本部長 青島 弘治

© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD.

森平：皆さん、森平でございます。本日はご参加いただきまして、ありがとうございます。それでは早速、説明をさせていただきます。

Agenda

24年度上半期決算および24年度通期予想

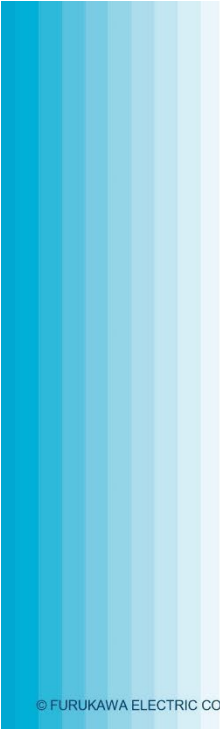
- 24年度上半期決算のポイント
- 24年度通期予想見直し
 - セグメント別営業利益、期末配当予想
- 事業環境と当社の取組み
- 情報通信ソリューション事業の回復に向けた取組み
- データセンタ関連製品群の強化
- さらなる成長に向けて

- 24年度上半期実績
 - 要約P/L、増減要因（売上高・営業利益）
- 24年度通期予想-要約P/L
- セグメント別売上高・営業利益
- 24年度上半期実績-要約B/S
- 設備投資額・減価償却費・研究開発費

Appendix

資料の3ページ目をご覧ください。こちらが、本日のAgendaでございます。

まず私から、左側に記載の項目をお話ししまして、続いて青島から、右側に記載の項目の要点をお話いたします。



24年度上半期決算および24年度通期予想

© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD.

4

次をご覧ください。4 ページ目です。今年度上期決算と通期見通しについてでございます。

24年度上半期決算のポイント

■ 前年比で増収増益、想定を上回る進捗

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)				
	FY23_H1	FY24_H1	前年比	
	a	b	b-a	
売上高	5,031	5,704	+ 673	すべてのセグメントで増収
営業利益	▲ 46	175	+ 222	サービス・開発等を除くすべてのセグメントで増益
経常利益	▲ 36	190	+ 226	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	▲ 41	112	+ 153	
銅建値 平均	1,241	1,497	+256	
為替 平均	141	153	+12	

5

5 ページ目をご覧ください。ポイントをこのページにまとめております。

売上高以下全ての項目で、前年同期比でプラスとなりました。利益につきましても、前年同期の赤字が黒字化しております。

24年度通期予想見直し

■ 売上高および各段階損益の通期予想を上方修正

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	FY23	FY24 前回予想*	FY24 予想	前年比	前回予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	10,565	10,800	11,400	+835	+600
営業利益	112	250	380	+268	+130
経常利益	103	205	360	+257	+155
親会社株主に 帰属する 当期純利益	65	130	220	+155	+90
銅建値 平均	1,262	1,155	1,396	+134	+241
為替 平均	145	140	146	+2	+6

* 2024/5/13公表

H2前提
銅建値：1,295円/kg
為替：140円/米ドル

6

今年度の通期見通しは、こちらに示すとおりとなっています。

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに、前回予想を上方修正いたしました。

24年度通期予想見直し-セグメント別 営業利益



主なセグメントの営業利益

セグメント	サブセグメント	H1	H2	FY23	FY24*	H1	H2	FY24	前年比	前回 予想比	状況認識
				a	b			c			
インフラ	情報通信ソリューション	▲ 60	▲ 69	▲ 130	▲ 60	▲ 58	▲ 2	▲ 60	+70	—	上期：想定をやや上回る実績 下期：テレコム市場の回復遅れ見込み
	エネルギーインフラ	▲ 26	44	17	35	29	21	50	+33	+15	上期：想定以上の実績 下期：想定通りの進捗見込み
電装 エレクトロ ニクス	自動車部品・電池	23	133	156	165	112	118	230	+74	+65	上期：受注安定による生産性改善 下期：上期状況が継続
	電装エレクトロニクス材料	6	25	31	45	31	14	45	+14	—	上期：製品ミックス等の改善・為替影響等 下期：エレクトロニクス市場の回復遅れ
機能製品		21	34	55	100	79	71	150	+95	+50	上期：HDD関連需要回復時期の前倒し 下期：データセンタ関連の強い需要継続
連結合計 (サービス・開発等、消去等を含む)		▲ 46	158	112	250	175	205	380	+268	+130	

* 2024/5/13公表

7

7 ページ目をご覧ください。セグメントごとの通期予想でございます。

情報通信ソリューションは、上期は想定をやや上回る実績となっております。下期はデータセンタ需要を中心に受注は回復基調にはあるものの、欧米テレコム市場の回復が当初の想定より遅れそうなため、通期予想は前回予想を据え置きました。エネルギーインフラも、上期は案件の前倒しなどにより、想定以上の実績となりました。下期は、おおむね想定どおりと予想しております。

自動車部品・電池は順調に推移しており、通期で好調を持続すると見ております。電装エレクトロニクス材料は、製品ミックスの改善や為替影響などにより、上期は上振れいたしました。下期はエレクトロニクス市場の回復の遅れがあると予想されるものの、おおむね期初に想定したとおりに推移すると見ております。

機能製品は、上期はハードディスクドライブ関連需要の前倒し回復、サーマル製品の好調などがあって、大きく上振れいたしました。通期も、この状況が持続すると見ております。

24年度通期予想見直し-期末配当予想

■ 期末配当は、1株当たり90円を予想しております
(2024年5月13日公表の60円から30円増配)

1株当たりの年間配当金 (円)



	21年度	22年度	23年度	24年度 (前回予想)	24年度 (予想)	25年度 (予想)
親会社株主に帰属する 当期純利益	101億円	159億円	65億円	130億円	220億円	370億円以上
配当性向	41.8%	35.4%	64.9%	32.5%	28.9%	30%を目標

株主還元の方針

安定的かつ継続的に株主還元していくことを基本方針とし、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目標として業績に連動した配当を実施

8

8 ページ目をご覧ください。

以上のような状況に鑑みて、今年度の期末配当予想は、前回の一株当たり 60 円を 90 円といたしました。

事業環境と当社の取組み



				2024年度	2025年度以降
事業環境	マクロ環境		政治/経済の不確実性に起因する市場の振れが大きい状況が継続		
	北米テレコム市場		緩やかに回復		本格回復は25年度以降の見込み
	データセンタ・AI市場	半導体市場	前年から大きく伸長		拡大傾向が継続
	エレクトロニクス市場		スマホ、PC向け製品需要の回復遅れ		緩やかに回復
	自動車市場		生産台数低調、特に中国市場		生産台数は緩やかに増加
当社の取組み				収益力向上の取組みが前進	さらなる成長に向け取組みを強化・加速
情報通信ソリューション			データセンタ関連製品の増産とラインアップ拡大		左記に加え、立ち上がるテレコム需要の捕捉
エネルギーインフラ			利益重視の受注、施工能力の強化		左記に加え、広域連系線事業展開の準備
自動車部品・電池			生産性改善・価格適正化が進展		電動車市場向け製品開発、自動化対応加速
電装エレクトロニクス材料			製品ミックス改善・価格適正化が進展		顧客ニーズに沿った高機能材料の開発・供給
機能製品			市場成長に伴う強い需要の捕捉（顧客対応力進化、生産体制整備、次世代製品開発等）		

9

9 ページ目をご覧ください。続きまして、当社グループに関連する事業環境と、それを踏まえた取組みについてご説明します。

政治/経済の不確実性に起因する市場の変化は、振れ幅が大きい状態が継続すると思われませんが、特に米国大統領選の影響を注視していく必要があると考えています。

そんな中で、当社グループに関連する市場環境ですが、北米テレコムの特にキャリア関連市場の回復は 2025 年度になると見込まれます。一方、好調なデータセンタ関連市場は、拡大傾向が継続すると思われま。エレクトロニクス市場の回復は遅れておりますが、今後は緩やかに回復すると見ております。自動車市場は、足元受注は安定しておりますが、全体量はあまり伸びておりません。しかしながら、これも今後は緩やかに回復すると見ております。

このような環境下で、当社グループとして注力していくポイントを、ここに記載しております。

情報通信関連事業は、データセンタ関連製品の増産とラインナップ拡大、テレコム市場の立ち上がりへの備えなどを継続してまいります。

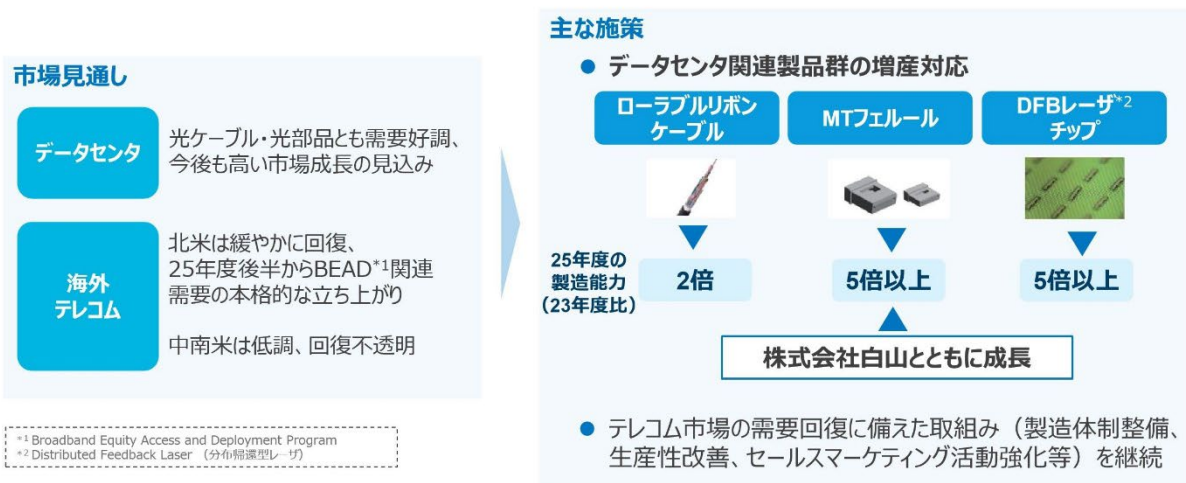
エネルギーインフラ事業は、工事施工能力の強化を続けながら、再エネ、国内広域連系線などに対する対応を進めてまいります。

自動車部品・電池事業は、生産性改善と価格の適正化を進めてきており、これを続けながら EV 関連製品の開発、生産工程の自動化などへ取組みを加速してまいります。

電装エレクトロニクス材料事業は、製品ミックスの改善・価格の適正化を継続しながら、高機能材料へのシフトを進めてまいります。

機能製品事業は、データセンタ市場などの成長に伴う需要を引き続き捉えながら、ニーズを先取りした製品開発・提供を継続してまいります。

- データセンタ市場は今後も成長、製品供給体制を強化し売上拡大を図る
- 海外テレコム市場の回復は緩やか、25年度以降の本格的回復に備えた準備を進める



10

10 ページ目をご覧ください。ここで、情報通信ソリューション事業の回復に向けた取組み状況をご説明します。

データセンタ関連需要の取り込みにつきましては、ローラブルリボンケーブルの製造能力拡大を継続しており、受注の拡大も図ってきております。また、MT フェールについても、本日プレスリリースしましたとおり、株式会社白山の株式を取得するなどして、製造・供給能力の拡大を進めるとともに、ローラブルリボンケーブルの端末に MT フェールを取り付けて販売するといった施工容易性を増す対応も進めてまいります。

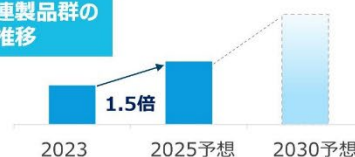
さらに、データセンタ内などで使われる発信光源用 DFB レーザチップの受注も増加しており、増産対応を進めております。

これらを足元で行いながら、北米などのテレコム関連需要の回復に備えた製造体制、セールス、マーケティング活動の強化も図ってまいります。

■ 今後も高い成長が継続するデータセンタ市場での売上拡大を図る



データセンタ関連製品群の 売上高推移



主な施策（機能製品）

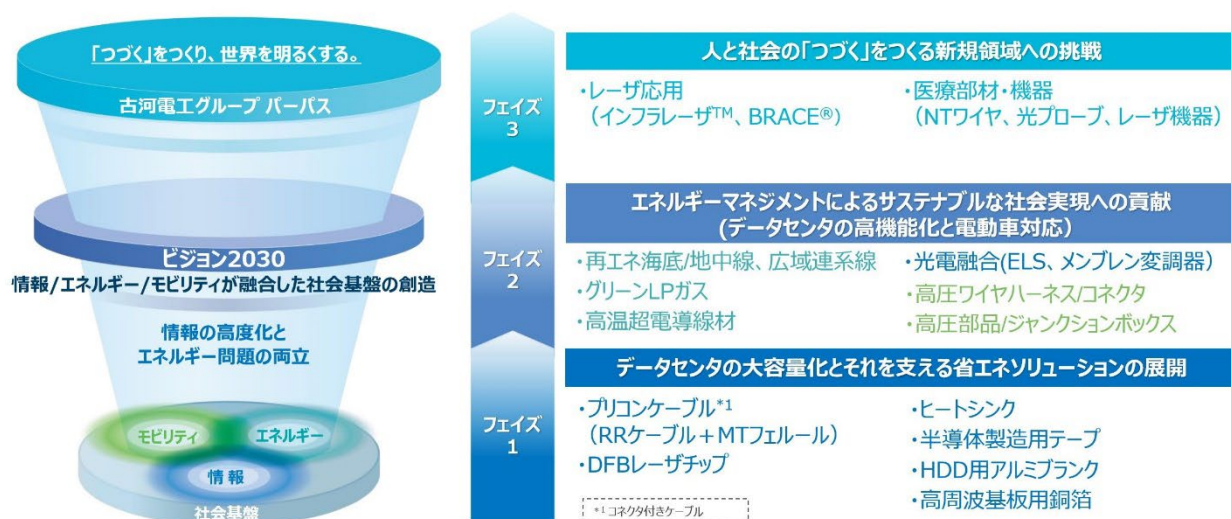
- ヒートシンク** 需要好調が続く空冷品の供給体制整備、水冷工場新設（26年度量産開始予定）
- 電解銅箔** 高周波基板用銅箔の供給力強化
- 半導体製造用テープ** 三重第2工場稼働（25年度量産開始）により高付加価値品の供給力アップ
- HDD用アルミブランク** 需要回復/変動への柔軟な対応、薄型品による差別化

11

11 ページ目をご覧ください。当社グループが有するデータセンタ関連製品をここにお示しました。

現状は、特に機能製品セグメントにおいて活況を呈しており、これをさらに伸ばすための施策を継続しております。これに加えて、先にお話した情報通信関連製品の製造能力増強、受注拡大も進めています。来年度のデータセンタ関連製品の売上高は、2023 年度比で 1.5 倍を想定しており、2030 年度に向けてさらに伸ばしてまいります。

■ ビジョン2030の達成さらにはパーパスの具現化により、さまざまな社会課題へ対応



12

12 ページ目をご覧ください。当社グループが掲げているビジョン 2030 に関しましては、このような進め方を想定しております。

まずは足元、フェイズ 1 として、先ほど申し上げたように、データセンタの大容量化、省エネ化に寄与する製品群を拡販してまいります。次に、フェイズ 2 として、エネルギー管理関連市場への拡大を機として、再エネ用海底線や地中線、広域連系線などの電力ケーブル、光電融合デバイス、高圧ワイヤハーネスやコネクタ、ジャンクションボックスなどの自動車関連製品、さらには高温超電導線材、グリーン LP ガスなどに関する製品を上市してまいります。

そして、2030 年以降の上市、事業成長を目指して、レーザ応用範囲の医療部材や機器、老朽インフラのメンテ対応等への拡大を進めてまいります。

私からの説明は、以上となります。

この後は、青島から決算等に関する追加・補足の説明をさせていただきます。

青島：財務本部の青島でございます。それでは、私より 2024 年度上半期決算および 2024 年度通期予想の詳細をご説明いたします。

24年度上半期実績-要約P/L

■ 前年比で増収増益、想定を上回る進捗

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	FY23_H1	FY24_H1	前年比	主な増減内訳
	a	b	b-a	
売上高	5,031	5,704	+673	15ページ参照
営業利益	▲ 46	175	+222	16ページ参照
(率)	▲ 0.9%	3.1%	+4.0	
受取/支払利息	▲ 36	▲ 40	▲ 4	
持分法投資損益	22	62	+40	
為替損益	21	▲ 26	▲ 46	
経常利益	▲ 36	190	+226	
(率)	▲ 0.7%	3.3%	+4.0	
特別損益	35	▲ 31	▲ 66	・特別利益：▲ 48 (63→15)
法人税等	▲ 36	▲ 31	+5	・特別損失：▲ 18 (▲ 28→▲ 46)
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 4	▲ 16	▲ 12	
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲ 41	112	+153	
(率)	▲ 0.8%	2.0%	+2.8	
銅建値 平均	1,241	1,497	+256	
為替 平均	141	153	+12	

14

14 ページをご覧ください。2024 年度上半期実績の要約 P/L です。

売上高および営業利益の前年比については、次ページ以降の増減要因で説明いたします。

営業外の持分法利益は、主に UACJ の持分法投資利益の増加により、前年比で約 40 億円増加。

特別損益で、前年比で 66 億円減少しておりますが、前年は政策保有株式の売却が多かったことなどが主要因となります。

親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益が増加したことにより増益となりました。

24年度上半期実績-売上高の増減要因

(単位：億円)



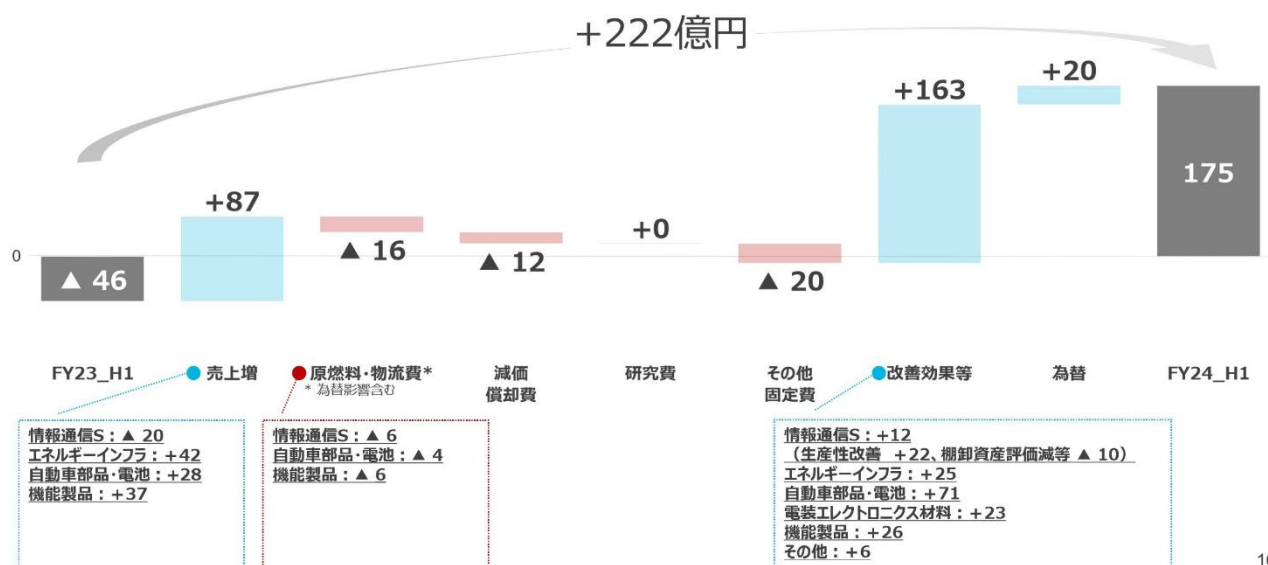
15

15 ページは、売上高の増減要因です。

前年同期比 673 億円増加です。地金価格の変動、為替影響等を除く実質的な変動は 277 億円となります。内訳は、情報通信ソリューションで約 70 億円減少、エネルギーインフラで約 120 億円増加、自動車部品・電池で約 50 億円増加、電装エレクトロニクス材料で約 50 億円増加、機能製品で約 120 億円増加となりました。

24年度上半期実績-営業利益の増減要因

(単位：億円)



16

16 ページは、営業利益の増減要因です。

前年同期比で 222 億円増加です。大きく二つの要因となります。売上増により 87 億円の増加、改善効果等により 163 億円増加、その内容は、価格の適正化、生産性改善、製品ミックスの改善などが含まれます。

24年度通期予想-要約P/L

■ 売上高および各段階損益の通期予想を上方修正

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	FY23	FY24 前回予想*	FY24 予想	前年比	前回予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	10,565	10,800	11,400	+835	+600
営業利益	112	250	380	+268	+130
(率)	1.1%	2.3%	3.3%	+2.3	+1.0
受取/支払利息	▲ 74	—	—	—	—
持分法投資損益	63	—	—	—	—
為替損益	▲ 1	—	—	—	—
経常利益	103	205	360	+257	+155
(率)	1.0%	1.9%	3.2%	+2.2	+1.3
特別損益	98	40	0	▲ 98	▲ 40
法人税等	▲ 116	—	—	—	—
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 20	—	—	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	65	130	220	+155	+90
(率)	0.6%	1.2%	1.9%	+1.3	+0.7
銅建値 平均	1,262	1,155	1,396	+134	+241
為替 平均	145	140	146	+2	+6

好調な市場環境で需要増を捕捉
エネルギーインフラ
自動車部品・電池
機能製品

持分法投資損益の増加

H2前提
銅建値：1,295円/kg
為替：140円/米ドル

* 2024/5/13公表

17

17 ページは、2024 年度通期予想の要約 P/L です。

下半期の銅建値と為替の前提は、右下に記載しております。

売上高は、好調な市場環境による需要増と銅価上昇を反映し、600 億円の上方修正。営業利益は、こちらに記載した三つのセグメントで 130 億円の上方修正。営業外収益で持分法投資利益を見直し、特別損益は上期に発生した損失等を見直し、親会社株主に帰属する当期純利益は 90 億円上方修正し、220 億円とします。

セグメント別 営業利益

■ FY24_H1はサービス・開発等を除くすべてのセグメントで前年比増益、想定を上回る進捗

主なセグメントの営業利益

セグメント	サブセグメント	H1			増減要因（前年比）	通期			
		FY23	FY24	前年比		FY24 前回予想*	FY24 予想	前回 予想比	
		a	b	b-a		c	d	d-c	
インフラ	情報通信ソリューション	▲ 60	▲ 58	+2	・データセンタ関連製品等の売上増 ・テレコム関連の受注停滞	想定を やや上回る	▲ 60	▲ 60	－
	エネルギーインフラ	▲ 26	29	+56	・国内超高压・再エネ関連・機能線の売上増等	想定を 上回る	35	50	+15
電装 エレクトロニクス	自動車部品・電池	23	112	+89	・安定した受注による生産性の改善 ・電池の価格適正化	想定を 上回る	165	230	+65
	電装エレクトロニクス材料	6	31	+25	・製品ミックス等の改善 ・為替影響等	想定を やや上回る	45	45	－
機能製品		21	79	+58	・データセンタ関連製品の売上増	想定を 上回る	100	150	+50
連結合計 (サービス・開発等、消去等を含む)		▲ 46	175	+222			250	380	+130

* 2024/5/13公表

19

18 ページは割愛し、セグメント別営業利益の状況を 19 ページで説明します。

上半期の営業利益は、前年同期比でサービス・開発等を除く全てのサブセグメントで増益となりました。

増益要因については、情報通信ソリューションは、テレコム関連の受注停滞がありましたが、データセンタ関連製品の売上増により増益。エネルギーインフラは、国内超高压・再エネ関連・機能線の売上増等もあり増益。自動車部品・電池は、生産性の改善や古河電池の価格適正化が進み増益。電装エレクトロニクス材料は、製品ミックス等の改善や為替影響等により増益。機能製品は、データセンタ関連製品の売上増により増益となりました。

こちらの四角で囲んだコメントは、上半期に想定していた予想に対してのコメントを記載しており、想定を上回ったエネルギーインフラ、自動車部品・電池、機能製品の三つのセグメントで、年間の見通しを前回予想から 130 億円上方修正し、年間見通しの営業利益を合計で 380 億円とします。

20 ページから 24 ページの説明は、割愛します。

24年度上半期実績-要約B/S



(単位：億円)	FY23末*	FY24_H1末	増減
	a	b	b-a
流動資産	5,178	5,354	+177
現金及び預金	489	517	+29
受取手形、売掛金及び契約資産	2,457	2,471	+13
棚卸資産計	1,836	1,963	+127
固定資産	4,672	4,404	▲ 269
有形固定資産	2,786	2,738	▲ 48
無形固定資産	203	200	▲ 3
投資その他の資産	1,683	1,465	▲ 218
資産合計	9,850	9,758	▲ 92
流動負債	4,009	4,013	+4
固定負債	2,259	2,213	▲ 46
負債合計	6,268	6,225	▲ 42
株主資本	2,849	2,672	▲ 178
その他の包括利益累計額	434	566	+132
非支配株主持分	299	295	▲ 4
純資産合計	3,582	3,533	▲ 50
負債・純資産合計	9,850	9,758	▲ 92
自己資本比率	33.3%	33.2%	▲ 0.1
NET有利子負債	2,841	2,798	▲ 44
NET D/Eレシオ	0.87	0.86	▲ 0.01

*「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等」の変更によりFY23実績値をリマイト(Appendix参照)

棚卸資産 127億円 増加
(為替・銅価の影響：+37億円を含む)
売上の増加 (FY23末比 57億円増加)
将来売上計上予定のプロジェクト・工事業件等 (FY23末比 33億円増加)

有形・無形固定資産 51億円 減少
設備投資・減価償却費の影響：▲ 39億円
為替影響：▲ 7億円
除売却等：▲ 5億円

投資その他の資産 218億円 減少
投資有価証券：▲ 192億円
※主にUACJ株式保有区分の変更(関連会社株式 → 一般株式)

資産合計 92億円 減少
連結範囲等の変動の影響：▲ 186億円 ※主にUACJ
為替影響：+79億円

株主資本 178億円 減少
利益剰余金：▲ 178億円 ※主にUACJ株式売却

その他の包括利益 132億円 増加
その他有価証券評価差額金：+184億円 ※主にUACJ株式時価評価益
為替換算調整勘定：▲ 32億円

フリーキャッシュフロー	
FY23_H1	FY24_H1
▲13億円	+91億円

25

25 ページは、2024 年上半期の要約 B/S です。

総資産は 9,758 億円、前年度末より 92 億円減少しました。円安による為替影響により、資産全体で 79 億円の増加。一方、投資その他の資産において、UACJ 株式が持分法適用会社から一般株式に保有区分が変更になり、その影響で約 180 億円の減少となりました。

また、純資産の株主資本についても、UACJ 株式の保有区分変更の影響もあり、178 億円の減少となりました。

NET 有利子負債は、営業キャッシュフローの改善等により 44 億円減少しました。

■ 通期予想は据え置き

《2024/5/13公表》

(単位：億円)	FY23_H1	FY24_H1	前年比	FY23	FY24 予想	前年比
	a	b	b-a	c	d	d-c
設備投資額	169	150	▲19	390	480	+90
減価償却費	192	204	+12	390	410	+20
研究開発費	124	124	▲0	245	260	+15

26

26 ページは、設備投資額・減価償却費、研究開発費です。

こちらは、5 月に公表した数値から変更はございません。

私からの説明は、以上となります。